

# 中国の金融市場は一転して「カネ不足」 「緩和マネー」一斉引き揚げ

2013年6月26日  
朝日新聞

ブラジル物価高、デモ激化

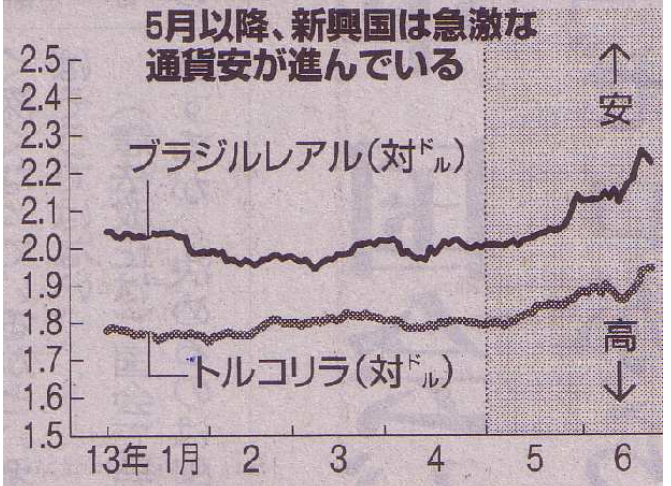
2013年6月24日の上海総合株価指数は約4年ぶりの下げ幅となる5.3%も急落。25日も続落し、今年の最安値の1959.51ポイントで取引を終えた。

世界経済の成長を引っ張ってきた新興国経済に異変が起きている。中国では金融不安から株価が急落。ブラジルやトルコなどでは物価上昇が続く、社会不安が広がる。米国の金融緩和の縮小観測をきっかけに、「緩和マネー」が、新興国から一斉に引き揚げられていくことが背景だ。

**中国、流入一転**  
今春まで投機資金の流入による過熱が心配された中国の金融市場はいま、一転して「カネ不足」に直面している。金融業界で、「経営破綻する銀行が出るかもしれない」という疑心暗鬼が広がり、銀行同士がお金を融通し合わなくなっている。このため、銀行同士が貸し借りする短期金融市場で、金利が急上昇。指標となるSHIBOR（上海銀行間取引金利）の翌日物は20日、前日の7.660%から、過去最高の13.44%に跳ね上がった。「他行に貸したらお金が焦げ付くかもしれない」と考える

銀行が増え、高利ではないとお金を貸さなくなっている。2008年秋のリーマン・ショック後の欧米の金融市場と似た状況だ。「銀行の資金繰りに不安が生じている」との懸念は、株式市場にも広がっている。24日の上海総合株価指数は約4年ぶりの下げ幅となる5.3%も急落。25日も続落し、今年の最安値の1959.51ポイントで取引を終えた。金融システム不安の元凶は、銀行などが販売する「理財商品」と呼ばれる高利回りの金融商品だとされている。こうした高利回り商品が、今後たちゆかなくなるという懸念が急速に高まっている。  
(北京 斎藤徳彦)

## 新興国経済 異変



**投資リスク回避**  
欧米先進国に続く新興国「BRICS」(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)の一角のブラジルでは、6月初めから政府への不満を募らせた国民のデモが収まらない。背景にあるのは、物価高だ。足もとの物価上昇率は、ブラジル中央銀行が上限とする6.5%付近で、1年前の5%前後から上がっている。経済成長で値上げが続くやすかったことに加えて、通貨安で輸入品の価格も上がったからだ。ブラジルレアルは今年初めは1ドル2.2程度だった。それが、5月中旬からはレアル安が急

激に進んでいる。足もとの2.2%前後まで下がっている。今後、さらに物価が上がるおそれがある。通貨安は他の新興国でも進んでいる。トルコでは24日午後、トルコリラが対ドルで1.9580と過去最安値となり、5月9日の1.79前後から約10%も下落した。インドのルピー相場も20日、一時1ドル60半台寸前に迫り、過去最安値となった。新興国通貨が下がり始めたのは5月中旬。米国の量的緩和の縮小観測が出た時期と一致する。投資家は低利の緩和マネーで新興国に投資してきた。しかし、緩和が縮小されるとみて、リスクが高い新興国での投資を縮小し、新興国通貨を売ってお金を引きつけているのだ。通貨安は、さらなる物価上昇をもたらす、社会の不満が高まりかねない。さらに、新興国特有の不安定な政治情勢で、マネーがさらに流出するという悪循環にも陥りつつある。  
(フランクフルト 吉武祐、ニューヨーク 庄司将晃)